

企業内データの連携・統合・活用を 先進の技術で最適化し、効果的に実現します

データセントリックソリューション DS

企業のIT投資は、個々の情報システムの部分最適化から情報システム全体の最適化を目指すエンタープライズアーキテクチャ(EA)の方向にあります。また、「いかにデータ(情報資産)を経営に活用していくか」その重要性の認識が深まるなか、ビジネスの変化に対応し、企業内データの柔軟な利活用と適切な管理ができるソリューションが強く求められています。このようなニーズに的確に対応するため、三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社(MDIT)は、企業に蓄積されたデータの連携・統合・活用を、先進の技術で効果的に実現する「データセントリックソリューションDS」を提供。今回はMDITデータセントリック技術部技術第二課長 石川雅朗氏と、プラットフォームソリューション技術部技術第二課長の山永康昌氏から、本ソリューションの特長について適用事例を交えて伺いました。

お客様の情報システムの 全体最適化をフルサポート

情報システムは、業務ごとに個別に構築されてきたこれまでの部分最適から、EA(Enterprise Architecture)に沿った全体最適化への変革が目まぐるしく進んでいます。

また、経営戦略・顧客戦略の立案や個人情報保護法との関係などから、企業内のデータとして、急激に増大している文書ファイルやメールなどの非構造化データを含めた経営情報、個人情報などのデータをいかに安全かつ効率的に活用するかが企業の至上命題になっています。

そのため、先進的な企業はデータそのものを重要な資産として見直し始めており、厳しい競争に勝つために、既存資産を活かしながら、より経営効率に優れた情報システムの全体最適化の実現が求められています。

このようなニーズから誕生したMDITの「データセントリックソリューションDS」は、企業に蓄積されたデータの連携・統合・活用を効果的に実現していくための製品・サービスの総称です。システム導入のためのコンサルティングサービスをはじめ、各種応用ソリューションの提供、運用・保守サービスまで対応するトータルソリューションです。そこで、具体的な事例とともに本ソリューションの特長やメリットをご紹介します。

100人超のデータ統合プロジェクトの 開発工数を50%削減

データ統合ソリューションは、様々なプラットフォーム、データベースに分散した企業データを低コストで有効に活用し、管理・運用するためのソリューションで、MDITでは数多くの導入実績があります。某金融機関のシステム構築事例では、データ統合プラットフォーム「PowerCenter」に関する国内トップレベルのノウハウを活かし、データ統合に関わるコンサルティングを行った結果、100人を超える開発プロジェクトに対して従来のデータ統合開発工数の50%削減に成功しました。

また、ある卸売業の場合では、同業との合併に伴いERP(Enterprise Resource Planning)の導入を決定しましたが、完成までの3年間は2社のシステムが並行稼働

することになり、合併のメリットになるはずの販売・仕入・在庫管理上の効率化が図れませんでした。そこでMDITが提案したのはデータ連携・統合ツール「DH」です。このサービスは、年額使用料金制のサブスクリプション方式を採用しており、導入リスクが極めて低く、リーズナブルに対応できます。

導入後は、各システムのDB(Database)からデータを収集・結合し、別のDBへロードすることで、両システムにまたがった販売実績・在庫状況などを把握することが可能になりました。

このように、最先端技術や大規模システムで培った技術やノウハウを、利用しやすいサービス提供形態(年額使用料金制により使った分だけ支払う)で、対応可能としている点も「データセントリックソリューションDS」の大きな特長です。



「組織」の壁を越えるために、最先端の 技術と導入実績で、今こそデータ活用を

「厳しい競争に勝つためには、企業は既存資産を活かしながら、より経営効率に優れた情報システムを構築する必要があります。データセントリックソリューションDSは、当社のデータ統合、データ分析の最先端技術と800ユーザー以上の豊富な導入実績を活かし、企業に散在するシステムやデータを連携し統合することで、より高度なデータ活用が可能になります。「組織」の壁を越え、経営に直結する情報システムを構築するなら、先進のノウハウと導入実績で業界をリードする当社にお任せください」



データセントリック技術部
技術第二課長
石川 雅朗氏

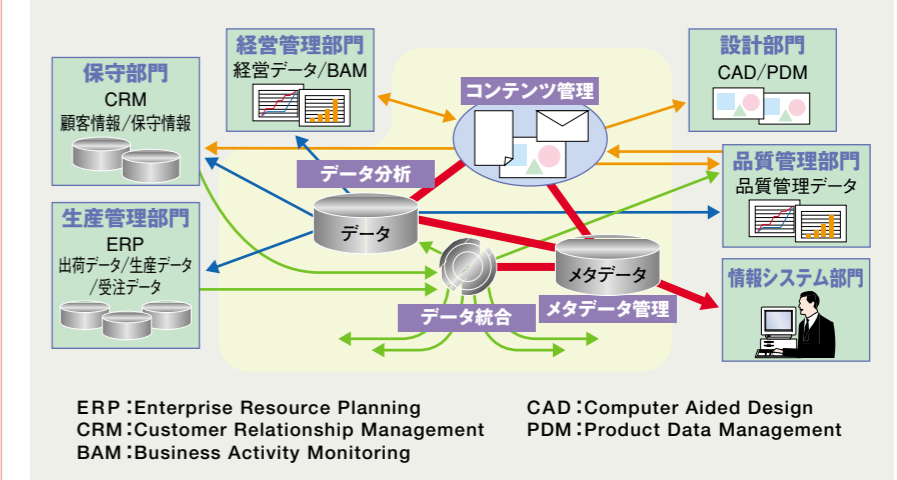
10億件17秒の高速検索・集計処理が 経営効率化と収益向上に貢献

膨大なデータを多角的な視点で高速に検証するデータ分析ソリューションは、800社を超える著名企業の導入実績があります。

某大手通信会社では膨大なアクセスデータを持ちながらも、処理能力の限界からデータの一部を廃棄、要約するなど、精度の粗い分析を余儀なくされていました。しかし、競争が激化する中で、このデータを経営判断に役立てたいというニーズは強く、MDITは超高速な分析処理を可能とするソリューションで課題の解決を図りました。MDIT独自の超高速集計・検索処理技術「DIAPRISM」により、10億件のアクセスログを使用し「月別アクセス数推移」の作成をわずか17秒で行い、さらに一般的なRDB(Relational Database)の1/5~1/40に圧縮するデータ分析を実現。顧客動向の把握や新規サービスの企画立案などに役立つデータの抽出を可能にし、収益性の高い新サービスの企画などに貢献しています。

また、ある製造業では、昨今のIT化の進展に伴う多種のシステム導入により、生産性が低下し、帳票作成にかかる時間、コストが大幅に悪化していました。そこでMDITは複数のRDBMS(Relational Database Management System)上のデータを結合し、複数システムにまたがってデータ検索・集計ができる「QL」を提案。これにより、簡易な操作で素早い検索・集計が可能となり、情報システム部門の負担を大幅に軽減することができました。「QL」も年額使用料金制のサブスクリ

■製造業でのデータ連携のあるべき姿 製品企画から保守コールセンターまで様々なデータが繋がり、リアルタイムに連携することが求められます。



プション方式を採用しているため、投資対効果の高いツールとして注目を集めています。

膨大なメール、文書などのデータ管理を 高度なセキュリティ対策を付加して実現

企業には文書・図面ファイルやメールなどの構造化されていない電子文書が膨大に存在します。個人情報の保護など、コンプライアンスの強化が求められている現在、これらの非構造化データを適切に管理・運用するニーズは、今後ますます高まっていくと考えられます。

MDITはこうした非構造化データについても最適に管理・利活用を図るデータ管理(コンテンツ管理)ソリューションも提供。例えば、ギガバイトレベルで発生する膨大なログ情報を高速に多様な角度から分析し、

情報漏洩を防止する適切なPDCAサイクルを実現するソリューションも提供しています(P10~P11 ビジネスレポート参照)。

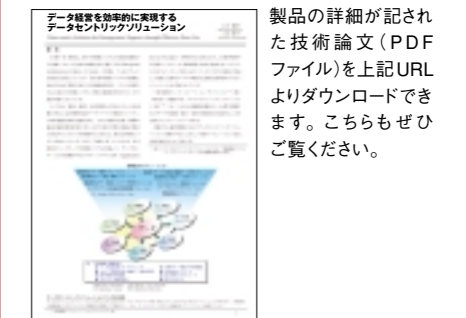
業務ごとに個別に構築されてきた業務システムの全体像を可視化するEAの考え方がすべての企業において重要視されています。データを的確に管理し、タイムリーに利活用するためには、データ間相互関係の総合的な把握とリアルタイムな連携が必須となります(図参照)。

このような先進性の高いニーズに応えるため、MDITは「データセントリックソリューションDS」のさらなる拡充を展開中です。

●お問い合わせ先

三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社
TEL: 03-6414-8052

製品に関する詳細は
<http://www2.mdit.co.jp/service/ds/>
製品に関する技術論文は
<http://www.mdit.co.jp/corp/tech.html>



製品の詳細が記された技術論文(PDFファイル)を上記URLよりダウンロードできます。こちらもぜひご覧ください。



既存資産を活かし、リーズナブルな価格で お客様の経営効率向上へきめ細かく対応

「お客様の既存資産を活かしながら、システムの全体最適化により、さらなる経営効率向上を早期に実現するデータセントリックソリューションDSなら、巨額な投資は必要ありません。システム規模に応じて、データ連携・統合、データ検索・集計など多彩な製品・サービスを用意。しかも、利用した分だけ支払うというリーズナブルなサービス形態が特長で、多くのお客様・SIベンダー様から大変ご好評を頂いています。また、コンサルティングから保守・サービスまで、きめ細かく対応しますので、安心してご相談ください」



プラットフォームソリューション技術部
技術第二課長
山永 康昌氏

EA(Enterprise Architecture):「企業」とコンピュータの「アーキテクチャ」(ハードウェアやソフトウェアの基本構造の設計法)とを統合し、一元管理することをめざしたものの。1996年、米政府により策定され、2004年日本政府にて用いられた。現在は日本政府のみならず企業のIT戦略策定においても用いられている。